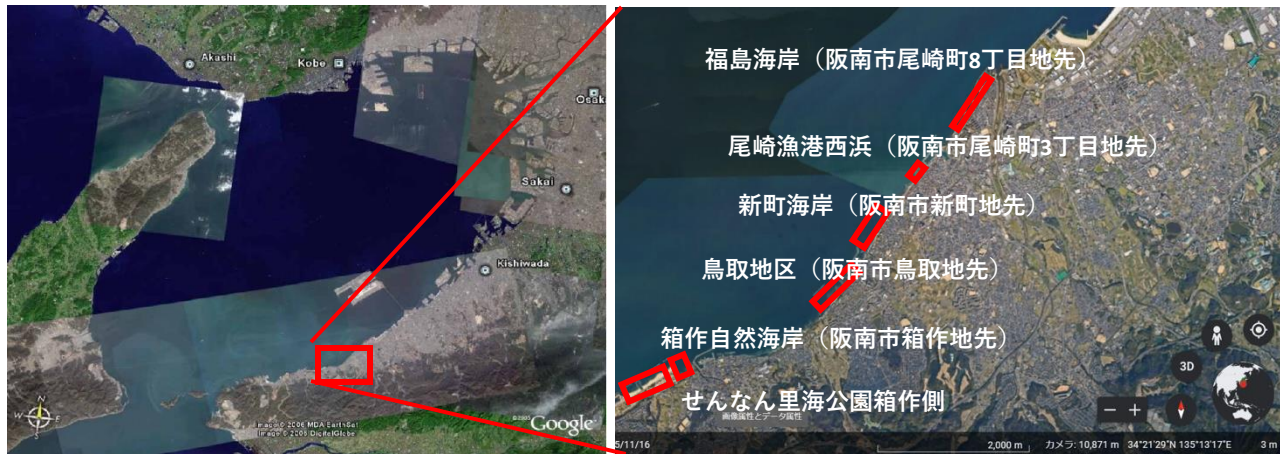


～魚庭の海の再生・阪南の海の再生～「海のゆりかご再生活動」 2023年度活動報告

阪南市、NPO大阪湾沿岸域環境創造研究センター、尾崎漁業協同組合、西鳥取漁業協同組合、下荘漁業協同組合

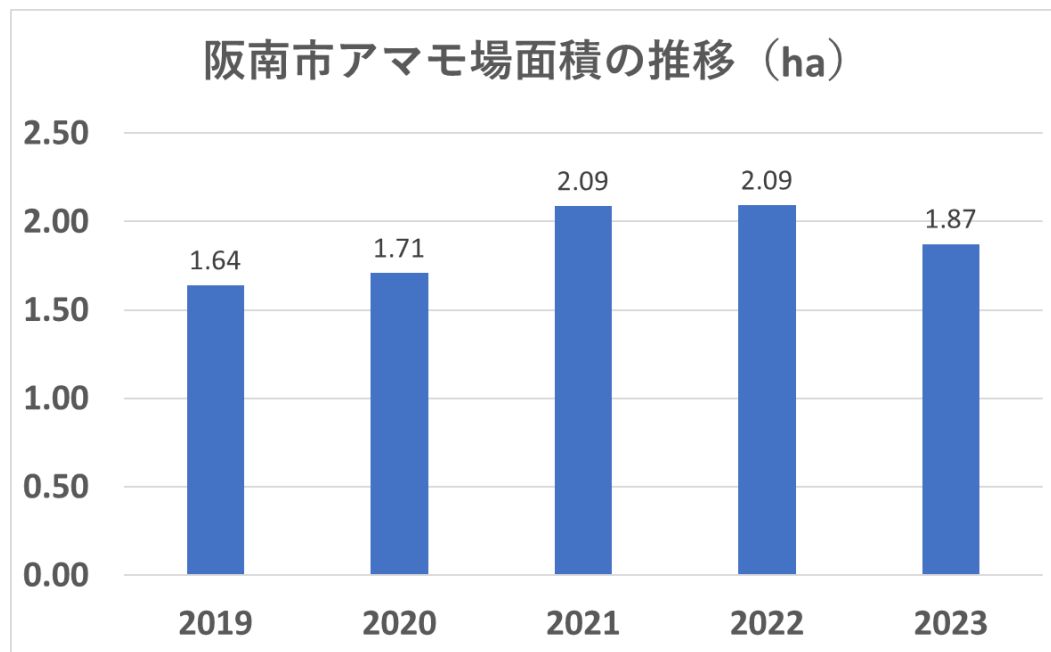
アマモ場面積・現存量調査

- ◆ 2023年4月18日・20日・21日・5月20日にドローンによる空撮および徒歩による目視調査、株数調査、流れ藻調査を行いました。また一定面積のアマモを採取し湿重量・乾燥重量の計測を行いました。





- ◆ アマモ場面積は1.87haで2022年度に比べてわずかに減少。
- ◆ 1haあたりの乾燥重量は平均で6.50トン。
- ◆ CO₂吸収量は10.00t-CO₂。



アマモ場保全・再生活動

- ◆ アマモ場保全・再生活動は、アマモの苗移植、花枝採取、播種、苗床づくり、生き物調査を実施しました。阪南市内の5小学校と企業3社と共同で実施しています。

| 内容 | 実施日 | 学校名 | 人数 | 場所 | 備考 |
|-----------------|--------|-----------|-----|--------|--------------|
| アマモ苗移植 | 4月20日 | 尾崎小学校6年生 | 44人 | 福島海岸 | |
| | 5月8日 | 上荘小学校6年生 | 62人 | 福島海岸 | |
| | 5月9日 | 西鳥取小学校4年生 | 22人 | 鳥取地区 | |
| | 5月19日 | 下荘小学校5年生 | 49人 | 箱作自然海岸 | 荒天のためスタッフで実施 |
| アマモ花枝採取 | 6月2日 | 尾崎小学校6年生 | 44人 | 福島海岸 | 荒天のためスタッフで実施 |
| | 6月6日 | 西鳥取小学校4年生 | 22人 | 新町海岸 | 荒天のためスタッフで実施 |
| | 6月15日 | 上荘小学校4年生 | 53人 | 福島海岸 | 荒天のためスタッフで実施 |
| アマモ場生き物調査 | 6月8日 | 上荘小学校3年生 | 56人 | 福島海岸 | |
| | 6月16日 | 下荘小学校5年生 | 49人 | 箱作自然海岸 | |
| | 6月20日 | 舞小学校4年生 | 33人 | 鳥取地区 | |
| | 9月15日 | 西鳥取小学校4年生 | 22人 | 新町海岸 | |
| アマモ種子選別 | 9月27日 | 西鳥取小学校4年生 | 22人 | 校内 | |
| | 9月28日 | 上荘小学校4年生 | 53人 | 校内 | |
| | 9月29日 | 下荘小学校5年生 | 49人 | 校内 | |
| | 10月4日 | 尾崎小学校6年生 | 44人 | 校内 | |
| アマモ苗床づくり、 播種 | 11月10日 | 西鳥取小学校3年生 | 21人 | 西鳥取漁港 | 府立岬高校との交流授業 |
| | 11月13日 | 下荘小学校5年生 | 49人 | 箱作自然海岸 | |
| | 11月14日 | 上荘小学校5年生 | 59人 | 福島海岸 | |
| | 11月28日 | 尾崎小学校5年生 | 39人 | 福島海岸 | |

| 内容 | 実施日 | 企業名 | 人数 | 場所 | 備考 |
|-----------|--------|--------------|------|------|--------|
| アマモ場生き物調査 | 5月18日 | プロロジス | 15人 | 鳥取地区 | 海岸清掃含む |
| アマモ花枝採取 | 6月3日 | セブン-イレブン記念財団 | 68人 | 鳥取地区 | 海岸清掃含む |
| アマモ播種 | 10月28日 | 東京海上日動火災 | 50人 | 鳥取地区 | 海岸清掃含む |
| | 12月2日 | セブン-イレブン記念財団 | 189人 | 福島海岸 | 海岸清掃含む |



苗移植



生き物調査



種子選別



苗床づくり



苗床

播種



セブン-イレブン記念財団

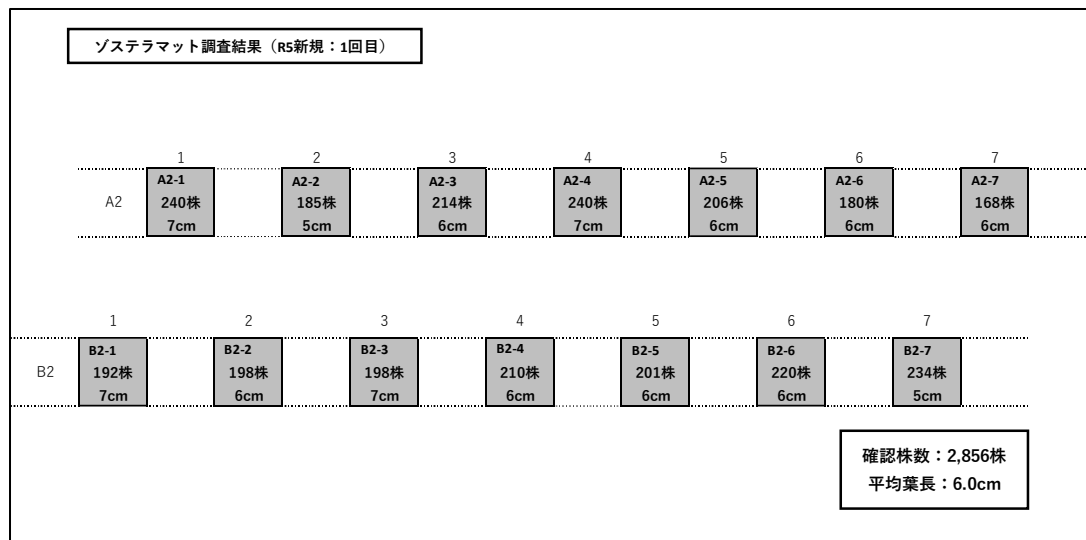


東京海上日動火災保険



プロロジス

- ◆ 阪南市のプロジェクト「阪南市ブルーカーボン推進事業」の一環で、12月に箱作自然海岸においてゾステラマット14枚を用いたアマモの播種を行いました。2月にはすべてのマットから発芽が確認され、総株数は2856株でした。



今後の活動計画

- ◆ 2024年度も引き続き小学校や企業と連携してアマモ場の保全・再生を進めていきます。
- ◆ 2019年～2023年の活動におけるクレジット申請を、今年度行う予定です。

その他 (トピックス)

- ◆ 2023年10月に環境省「自然共生サイト」の認定を受けました。
- ◆ 2024年2月に行政・市民・NPO・企業等が協働で保全・活用し、次世代へ継承する活動が、「第1回全国海の再生・ブルーインフラ賞 みなと総研賞」を受賞しました。
- ◆ 阪南市のアマモ場を含めた浅場干潟が、令和6年度環境研究総合推進費戦略的 研究開発 (I) S-23「沿岸環境・生態系の統合的管理のためのデジタルツインプラットフォームの構築」のメインフィールドとなりました。